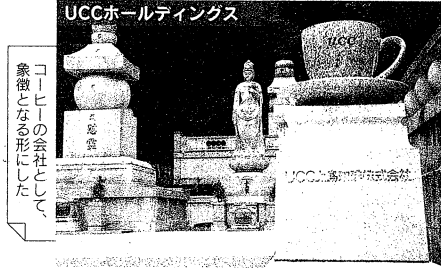


高野山奥之院にはユニークな企業墓もある



「コーヒーの会社として、象徴となる形にした」



命を犠牲にして供養するシロアリを、脱除して仕方がないために建てた



「航空機から航空宇宙産業」を想像させるロケットの形にした

パナソニック・UCC・ヤクルト…

近年はパワースポットとしても人気がある高野山。奥之院おくいの参道は老杉がそびえ立ち、「明智光秀なまぐめかし」武將の墓が並ぶ。脇道に進み一見普通の墓地にたどり着くと、コーヒーカップ形の「墓石」が目に入った。土台には「UCC上野珈琲株式会社」の文字。これが企業墓だ。ヤクルト、福助、ロケット。約200坪の石畳の道の両脇に、見覚えのある企業の商品やロゴを模した「墓石」が次々と見つけた。



現代の侍社員ねぎらう

「記録上、株式会社としては1938年の松下電器産業(当時)が最古」と吉川さん。探してみると、メーソンの参道沿いに「つむじ」の石碑「松下電器墓所」があった。すぐ隣には「パナソニック墓所」と記された新しい石も。「2008年の社名変更を節目に、参詣客や企業関係者に目印になるようデザインにした」とパナソニック広報部とこい、毎年9月、80人前後が集ま

終身雇用の日本ならではの

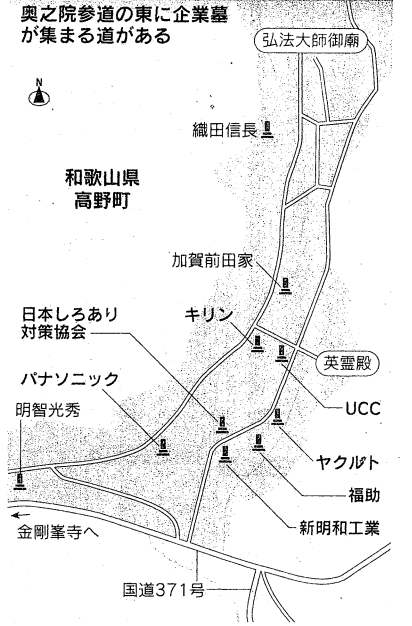
「(こ)で1つ疑問が、倒産したりM&A(合併・買収)があったりした場合は?金剛峯寺の吉川さんの話では、引き払うか維持するかで、いわゆる「無縁墓」はない。敷地はずでいよいよだが、現在でも企業から「建てたい」と問い合わせがあり、まれにだが「入れ替え」もある。道中で偶然、面白い人に出会った。米シカゴから来たリディア・スミスさん(22)。世界中の墓石を比較研究しているという。こんなに変わった形の墓石が集まる場所は初めて。1つの企業に勤め続ける人が多い日本独特の文化では、とやや興奮気味。そういえば中牧館長もこう言っていた。「主人のために奉公する武士を尊ぶ文化は、現代企業にも息づいている」

「むかし侍、いま会社員」。戦国時代と現代が交錯する歴史のロマンに胸を熱くし、企業墓の「名刺入れ」に名刺を1枚供えて高野山をあとにした。(大阪社会部 野岡香里)

高野山に「企業墓」ずらり

お盆休みを1カ月後に控え、「お墓参りに行かなくては」と考えていた時、知人が「高野山には変わったお墓がある」と話しかけてきた。企業の墓、だという。これまで企業取材してきたが、聞いたことがない。謎の「企業墓」を探るべく、現地に向かった。

奥之院参道の東に企業墓が集まる道がある



り慰霊の法要を開いているところ。

国立民族学博物館名誉教授で吹田市立博物館の中牧弘允館長(宗教学者)は「企業墓を持つことはステータス。目立つ石は宣伝にもなる」と指摘する。中牧館長によると、企業墓と呼べるものは比叡山延暦寺や、東京・上野、不忍池の弁天堂など関西以外にもある。企業が自社の敷地内に建てる例も。ただ、これほどの規模は高野山だけで、その数は約100社。「有名な『聖地』だから」で、終身雇用制度や「企業戦士」が深く関わってきた。建立は高度成長期からバブル崩壊前にかけてがピークという。